

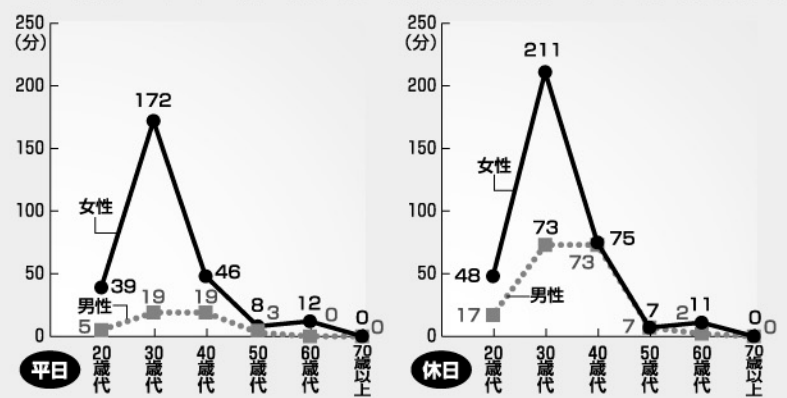
お父さんの役割りが
幸せをはこぶ

男の子育て



子育て真っ最中の30歳代の男性と女性では、1日にかかる子育ての時間に大きな差があります。女性の子育て時間は平日では男性の約9倍、休日でも約3倍となっています。また平成17年の調査では、30歳代の男性は平日24分・休日88分、女性は平日234分・休日254分だったので、この2年で男女とも子育て時間は短くなっています。この背景には、少子化とともに男性の長時間労働があると思われます。共働きが増える中、ますます重くなる女性の負担を軽減するとともに、こどもの健やかな成長のためにも、男性の育児参加による夫婦共同の子育てが求められています。

1日に子育てのために使う時間/性・年齢別比較(平成19年 江東区政世論調査)



夫婦で学ぶ、両親学級

城東保健相談所 江東区大島3-1-3
☎(3637)6521

区内の各保健相談所では、出産を控えたご夫婦を対象に「両親学級」を定期的に開催しています。今回ご紹介するのは城東保健相談所。毎週第1・第4金曜日の午後から、妊娠中の栄養、お産の準備、沐浴のさせ方などの講義や実習を行っています。

また男性も参加しやすい土曜日には、親になるための準備に重点を置き、OBの体験談や心理相談員の話などによる「土曜版両親学級」を年に6回開催しています。いずれも子育ての実技を指導するとともに、参加者の交流の場となることを大切に考え、グループワーク(妊婦さん、お父さん同士の話し合い)を取り入れています。



▲平日の両親学級でもご夫婦そろって初めての子の誕生を準備する方が増えています。こどもが生まれた後も、心強い仲間となる近所の妊婦さんと交流を深めています。

に、参加者の交流の場となることを大切に考え、グループワーク(妊婦さん、お父さん同士の話し合い)を取り入れています。「心の準備をしたいと思って参加しました。夫が一緒に来てくれて、出産後もサポートしてくれると思うと安心です」と話してくれたのは、大島にお住まいの村山さんご夫妻。夫の参加は妊婦の精神的な安定にとっても役立つので、ぜひ夫婦同伴でご参加

ください。こどもも夫婦だけでなく周囲の人たちと育てるもの。地域の方とも積極的に交流しましょう。



オトコの子育て

講演とアンケート調査

2月2日、男女共同参画推進センターにて、18年度のパルカレッジ修了生で構成するグループ「とく・さろん"Palな遺伝子No14"」が「男の子育て」についての講演会とグループ独自の調査結果について発表をしました。

講演会「はじめてみませんか?「オトコの子育て」

「経済省の山田課長補佐、ただいま育休中」の著者山田正人氏から、育休取得の体験を通して、家族、職場、友人などの反応やエピソードとともに、男性の積極的な子育て参加は、仕事や日常生活における能力の向上や無駄な仕事を合理化する努力など様々なメリットをもたらすことが紹介されました。

グループ独自で「パパの子育てアンケート」を実施

講演会の後、昨年末グループで実施したアンケート調査の結果について発表がありました。パパが実際にしている子育ては、「遊び相手」、「風呂に入れる」、「しつけ・教育」の順で、ママが期待しているのは、「遊び相手」、「しつけ・教育」、「風呂に入れる」でした。

パパの子育て参加は、ママの負担を軽くするだけでなく、男親としての自覚と責任を深める一助になっている事が分かるなど、男性の子育てについて考える機会になりました。



第五砂町小学校の保護者による「おやじの会」は「小学校のPTA」というと母親の会というイメージがありますが、子育てを母親だけにまかせてはいけません。お母さんの手が届かないところをお父さんが手伝おう」と平成16年に発足し、会員は現在約40名です。

最近では「おやじの会」独自の活動に取り組もうと、会員が救命救急の資格を取得。イザという時に人工呼吸や電気心臓を刺激するAED装置を活用できる態勢を整えています。



▲五砂小おやじの会 代表 中野 淳一さん

運動会のテント組み立てや後片付け、年1回行われるバザーの会場サポートなど、学校行事やPTA行事のお手伝いを中心に活動しています。またバザーで模擬店を出店して、地域主催で24年の伝統をもつ「少年少女相撲大会」では、土俵のセットや取組みの手伝いをしたり会場の見回りなどを受けています。



▲子育ては女性だけのものではありません。小学校の行事にお父さんも積極的に参加。少年少女相撲大会では女子の土俵もつくりまします。

父親の「復権」につながる活動

第五砂町小学校

おやじの会